日本の印象

ヨランタ・シールレ

世界は一冊の本、
一歩あゆむごとに、
そのページが
われらに開かれる。

皆さまたちチェルノブィリ基金の方々の多年にわたる支援とイニシアチーブのおかげで、今回わたしは日本に行って来ることができました。長崎で、はたまた京都と東京で、大学病院その他の施設で医科学分野での達成に、まる一ヶ月にわたって集中的に触れ学ぶ機会をえました。獲得されました知識はすでにわが仕事のなかで活用されています。これに関わってくださった各位全員に深甚な謝意を表するしだいです。

しかしながら本日は医学分野のことではなくて、今回の旅の印象について話させていただこうと思います。それは成田空港でのモーツアルトの静かな癒しの音楽から始まりました。それからすぐに長崎に飛び、主としてそこに滞在したわけです。

暖かで陽ざしのおだやかな日々が続いていたのですが、自然はその本性を忘れていたわけではなかったのでして、おかげで音にきこえた台風なるものにこの長崎で出会うことができました。強化ガラスの軋り音、千切れた枝葉の舞転がり、さらには引き抜かれた樹木、吹き飛ばされた屋根を目撃したわけでして、自然の威力を思い知らされました。まことに忘れえぬ光景でした。しかし長崎の街はまたたく間に復旧し、以前の生活に戻りました。

長崎は古くかつ非常に興味深い歴史を有する町であり、多くの記念物が異なった文化の融合を鮮明に現しておりました。ヨーロッパの古い文化とその日本文化なかでの適応を見るのは興味深いことでした。両文化は自らを損ねることなく、なんと見事に調和していたことでしょう。

ヨランタ・シールレさん

高齢者の福祉施設に案内され、そこでまさにその人々の口から原爆体験をお聞きしましたが、忘れることができません。その方たちから手製の玩具を頂戴しましたが、これは末永く保持されるでしょう。

秋の収穫を祝うくんち祭(御九日の長崎なまり、同市の代表的祭りのひとつ——訳注)に出会えたのは幸運でした。着飾った町並み、はなやぐ人々、彩りゆたかな御輿。記念にたくさん写真をとりました。思い出に残っているものに、模様入りのタオルがあります。出し物が終わったのちに、一人の見知らぬ女の子がくれたものです。その子はわたしのそばに駆け寄ってき、タオルをもらえたかどうか尋ねました。わたしがノーと首を振ると、自分のものを差し出たのでして、わたしはこの好意を受けざるをえなかったのです。

気配りのきいた多くの人々に出会えたのは嬉しいことでした。

こよなく美しい自然と古い寺院群の融合——京都ですごした二日は魂のやすらぎでした。晩秋もしくは早春にもう一度訪ねて、心ゆくまでその美しさを味わいたいものです。奈良に行く時間は残念ながら有りませんでした。

東京での短い滞在の間、仏像展に案内してもらいました。それらは8-9世紀にびゃくだんの木で作られたものだそうです。またそれらは展覧会の期間、全国の寺院から集められ展示されたものなのです。めったにないものを見学ができたのでした。

第5福竜丸の見学は有益でした。乗組員の方々の苦難に同情いたします。皆さんたちが船体を保存され、世界でこうしたことが繰り返されないように闘っておられるのは、立派なことです。

残念ながら、出来事、印象、人々との出会いの全

てについて、手短にお話することはできません。しかしそのすべての思い出はいつまでもわたしのうちに生き続けます。

終わりにのぞみ、貴国に滞在中にお会いしたすべての人々に、旅と研修を立案してくださり、まる一ヶ月にわたって忍耐強くわたしを指導してくださった方々全員に、心からなる《有難う》を申しあげます。

クリスマスと新年を迎えるにあたり、皆様に素晴らしい年、幸福と健康、すべての新しい出発での成功を願うものであります。　（訳・長瀬隆）■

日本についての私の印象と思い

ナタリヤ・クルヤネ

日本で最高だったのは日本の人々でした。その立ち居振る舞いには驚かされました。日本人は驚くべき人々、特異な人々です。とても親切で、静かで、遠慮がちで、そして礼儀正しい。第一印象では日本人は控えめだというのが私の第一印象でした。でも表面の控えめさの下には、とても感じやすい、いつでもすぐ手を差し伸べてくれる人々がいました。日本の方たちとのお付き合いは、全く問題なく、気持ちの良いものでした。

病院では、日本のドクターたちは患者にとても優しく接していました。これまで私が見たことのないような近代的な医療技術や医療設備が備わっていました。広島がこんな大都市だとは予想していませんでした。60年前に起きた悲劇は私にとって衝撃的でした。もちろん私は来日前にも被爆のことを知っていましたが、今では広島の一つ一つの石を感じることができます。不幸なことですが、広島と長崎は世界中の多くの人々にとって日本のシンボルとなっています。

ナタリア・クルヤネさん

京都は美しい日本の町、長い歴史の町です。日本建築の傑作がそこにはあります。威厳のある光景！その石が語ってくれたら、と思わずにはいられません！京都には深い感銘を受けました。日本の人々が自国の伝統を守ってくれて本当によかった。もちろん京都は一日にして成ったわけではありませんから、一日で見ることもできませんが。

エストニア・チェルノブイリ・ヒバクシャ基金の皆さま、そしてHICAREの皆さま、皆さまの素晴らしい国を訪れ、日本で研修を受ける機会を与えてくださったことに感謝します。研修後、私は日本に恋してしまいました。感謝の言葉もありません。皆様のことを忘れることはないでしょう。　（訳・山下）■

東京・お茶ノ水の交流会にて